



落雷から身を守るには

梅雨に入ったと思ったら、線状降水帯という言葉が耳にする機会が増えてきました。昨日も天気図とにらめっこしていて、他に気になったことは、落雷注意報が出ていたことです。この雷で記憶に新しいのが、4月3日に、宮崎市のグラウンドで、サッカーの試合中に落雷があって18人が病院へ運ばれた事故です。気象庁によると、宮崎地方気象台は、前日の2日午後3時55分頃から雷注意報を出していました。落雷時も注意報は継続していたと言います。当時の大気は不安定になっていて、積乱雲が発生しやすい環境ができていました。宮崎でも積乱雲が通過する際に、ざっと雨が降って雷が鳴り、その後また別の積乱雲が通過する現象が繰り返されていました。落雷と言えば、夏に多く発生します。気象庁によると、2005年～2017年で落雷被害の数は1540件でそのうちの約3割の498件が8月で、次に多いのが7月です。

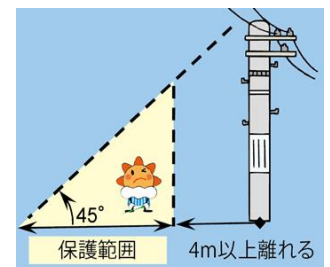


気象庁から雷注意報が出たときに、屋外にいた場合は、空の状況をよく見るのが大切になってきます。雷の音が鳴ったり、空がピカッと光ったりしたら建物の中に避難することが肝要になってきます。雷の音は空気が振動することで伝わり、1秒間でおおよそ340メートル進みます。例えばピカッと光ってから、雷鳴が轟くまで5秒間経ったとすると、「距離=時間×速さ」つまり5秒×340m/秒=1700mで雷の位置まで約2km以内だと考えられます。しかし、距離があるからと言って油断はしてはいけません。その瞬間の雷鳴の積乱雲だけが近づいているわけではなく、知らないところで新たな積乱雲が発生している可能性があるからです。雷鳴が聞こえるということは、大気が不安定で、落雷の可能性が高まっているからです。

最も安全な避難先は、頑丈な建物です。建物が無ければ、車の中がお勧めです。しかし、近くに建物も車も無いときには、雷は高い物に落ちやすい性質を生かして、できるだけ姿勢を低くすることが重要です。木の下に逃げ込むことはNGです。

以下は、令和4年の「わくわく通信96号」に掲載したものです。役に立つので是非参考にしてください。

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ（保護範囲）に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。なお、保護範囲に退避していても、落雷地点の近くで座ったり寝ころんでいたりしていると、地面に接触している身体の部分に、しびれ、痛み、ヤケドが発生し、ときには歩けなくなることがあります。



（雷から身を守るには — 安全対策 Q&A — : 日本大気電気学会 から引用）

※私も小学生の時に目の前の木に雷が落ちて、体が痺れた経験があります！